

ブラインドウオークをして



深谷小学校5年 瀬山 大地

五月二十二日に、目が見えない人の気持ちを知るために、ブラインドウオークをしました。ぼくは、A君とペアになりました。

はじめに、A君が目かくしをし、ぼくが、教えてあげる人になりました。ぼくが、体育館のげんかんまで、教えながら歩いていたら、

「何にも、見えなくて、こわい。」

と、A君がおびえながら言いました。それまでぼくは、だん差がある所や電線支柱など、ころびそうな場所や、ぶつかりそうな場所があると、ていねいにA君に説明をしていました。それでも、A君が、「こわい。」と、言ったので、少しおどろきました。でも、自分がアイマスクをして、目が見えなくなった時、初めて、A君の気持ちがわかりました。どんなに説明をされても、真っ暗の中で歩くのは、とてもこわかったです。五分くらい歩きましたが、二倍以上の時間に感じました。目が見えない人は、真っ暗な世界で、一生すごしているんだと、初めてわかったような感じがしました。どんなにつらくて、悲しくてこわいだらうと思いません。生まれた時から、目が見えない人は、太陽の明るさも見えなくて、自分の顔もわからないのです。お母さんの顔も知らないのです。そう思っている時、先生が、目が見えないおじさんのことを書いた作文を読んでも

れました。それを聞いて、わかったことがあります。目が見えない人たちは、人に全て頼っていない、いじめてもない、自分の力でついで歩いていたり、ぶつうに、明るく生活しています。それは、目が見えない人たちが以上に、努力やあきらめがない心があるからだと思いました。そして、それは、強い心と勇気があるからだと思います。ぼくたちは、そんな勇気を、目が見えない人たちから、教えてもらっていることがわかりました。深谷市内の道路には、点字ブロックや、信号が青になると、音が鳴ったり、エレベーターに点字があります。しかし、エレベーターに点字があっても、止まった階の放送がなければ、何階なのかわからないという目が見えない人の意見を書いた本を読んだことがあります。たしかに、ピンポイント、鳴るだけのエレベーターもあります。目が見えない人は、着いた階のランプが見えませんが、点字だけでは、不じゆう分だと思えます。また、段差のある所もまだあります。ユニバーサルデザインは、目が見えない人の立場になって考えないと、役に立たないユニバーサルになってしまふと思えます。目が見えない人の立場になって考えることで、いっしょに仲よくくらせる町になると思えます。ぼくが、できることは、町で目が不自由な人を見かけたら、

「できることは、ありますか？」

と、声をかけることだと思います。困っている事を助けてあげられたら、ほっと安心すると思えます。自分もほんわりと、幸せな気持ちになると思えます。そして、目が見えない人たちのことを、知らない人たちに気持ちを伝えていきたいと思えます。これからも、住みやすい深谷市になるためにぼくたちも勉強していきたいと思っています。

夢

なかるべからず

自然との共存を求めて



今井 誠 さん

環境保全

農業は、食料供給の機能のほか、国土や環境の保全といった多面的機能が

しかし、近年環境と調和の取れた持続的な農業生産が立ち行かない事態も生じてきている。その現状に立ち向かう青年がいる。今井 誠。生産性が高く、環境に配慮した農業を、日々目指している。

譲葉の賦

③ 福本の家

勘助と義八の家は、父守道の代でこの北阿賀野の地に土着して九代を数える。

その家系は、かの新田義重の後裔で南北朝時代の武将である桃井直常から出ており、この直常が横瀬村の福王寺を創建したことに由来して、義八の家は福本の姓を称していた。兄弟の父である守道は、貧しさから我が子に充分な教育を与えることができないことに涙する程、高い志と、名門新田氏の末裔に相応しい風格を備えていた。

この父は、その志の高さ故に、自らの事よりもまず世のため人のために優先させるような人徳者で、ついには村の三役である組頭に推されるまでになり「さすがは新田の末裔」と近在で評判であったが、こうした父の性質が福本家の貧しさの一因であることもまた事実であった。父守道とともに、母スミもまた、近在では良妻賢母として知られた存在で、福本家がまがりなりにも組頭の役職を努めることができるのも、この母の支えに依るところが大きいと近所の者は噂していた。

桃井可堂伝

後々の話になるが、福本家の十代当主となる勘助は、和歌を愛する雅な心と、弱きを助け強きを挫き、義のためには命を惜しまないという任侠の心を併せ持ち、加えて弁が立つことから人望を集め、近在の採め事の解決を一手に引き受けるようになる。

また、義八は長じて桃井可堂を名乗り、幕末の風雲前夜という時期に江戸で私塾を開き多くの憂国の志士を育て、自らもまた草莽の志士として尊皇攘夷の理想にその命を賭すことになる。

そうした明日が待ち受けるとも知らず、十歳になったばかりの義八は、あいかわらず晴耕雨読、三余のときを讀書にあてていた。

そんなある日、延命地の斉藤家への遣いをすませ、一人家路を急ぐ義八の前に、伸び放題の髪を総髪に束ね、無精ひげにまみれた赤ら顔の男が立ちはだかった。

「お前が北阿賀野の義八か？」事態を把握できずに啞然とする義八などお構い無しに、男は酒臭い息でそう問いかけた。

安心・安全への模索

小さな頃から、畑や田んぼで両親の手伝いをしてきた。その合間をみて、ザリガニや鯰など捕まえては、泥まみれになり遊んでいた。それが今井にとっての自然だった。岡部中学校では、バスケット



オランダ・アムステルダムでの研修先で (写真：右)

トで毎日汗を流し、次第に農業と疎遠になった。気が付くとサラリーマンになっていた。そうしている間に、いつの間にか、田んぼに当然いるはずの、小さな魚や虫たちが、姿を消していた。

農業に従事してみて、農薬を使わない農法の難しさをひしひしと感じている。だから、消費者に見える形で、安心・安全な農作物を如何に供給で

きるのか、模索している。直接作物を手渡した時、笑顔で返されると、安心を届けることの喜びを感じる。

自然を愛すればこそ

昨年10月に、埼玉県農業青年海外派遣研修生として、オランダ、ドイツを訪問した。農業も人間が介在する以上、環境に負荷を与える産業である。しかし、そこでは皆プライドと自信を持ち、自然と共存しながら農業を営んでいる姿を目の当たりにした。

欧州とは自然環境も違い一概には比較できない。しかし、日本の自然が、小さかった頃の生き物のたくさんいる田んぼが、恋しい。だから今井は、自然と共存した、安心・安全な作物にどうしても拘る。

夢七訓

夢なき者は理想なし
理想なき者は信念なし
信念なき者は計画なし
計画なき者は実行なし
実行なき者は成果なし
成果なき者は幸福なし
ゆえに 幸福を求める者は 夢なかるべからず※

(本文中の敬称は本人の承諾を得て省略しています)